

だ。アンさんは一言も聞きはしませんよ

ホワイトフィールド夫人 (大膽に) 聞いたつて何だつて構やしない。妾だつて云ひ度い事を云つて悪い筈はないんだから

ヴァイオレット (芝生に來着いて、ホワイトフィールド夫人とタナアの間へ來る) お袂別に參りました。

此から新婚旅行に出發しますので

ホワイトフィールド夫人 (泣出して) あゝ、其はヴァイオレットさんあんまりだ。式も擧げず、

お祝もせず、衣物も拵へず、何も彼もせずに行くなんて

ヴァイオレット (宥めて) すぐ又歸つて來るんですから

ホワイトフィールド夫人 一緒に亞米利加などへ行かない様にね。行かないと云つて下さい

ヴァイオレット (きつぱりと) えゝ、行かないでせうとも。どうぞ泣かずに置いて下さい、

妾は只一寸旅館へ行く丈ですから

ホワイトフィールド夫人 だけどころな着物を着て荷物などを下げてゐると、何だか此から

……咽び返る。其から又泣聲で) あゝ、貴女が妾の娘であつて呉れたら

ヴァイオレット (宥めて) ササ。妾もさう思ひますの。アンさんが妬りますよ

ホワイトフィールド夫人 彼女は妾の事なんか一寸も思つてゐやしません

アン 何ですわねえ、お母さんは。さあゝもう泣いちや不可ません。ヴァイオレットさ

んは、泣かれるのは嫌ぢやありませんか (ホワイトフィールド夫人は眼を拭いて泣止む)

ヴァイオレット ジャックさん、さよなら

タナア 左様なら

ヴァイオレット 貴方も早く結婚なさいよ。さうすれば今の様には誤解されなくなりま

すから

タナア (強情に) 僕も必つと晩迄には結婚する事になると思つてゐる。貴女達は皆其う

極めて終つてゐるらしいから

ヴァイオレット そんな結構な事は又とないぢやありませんか (ホワイトフィールド夫人の腰に手



を付けて云ふ) 一緒にホテルへ行きます。馬車に乗つたら又氣も變りますから。さあ、家へ行つて何か上に羽織りませう(別荘の方へ連れて行く)

ホワイトフィールド夫人 (一緒に庭を登つて行きながら) 貴女が行つて終つたら、妾はほんとに何何しやう。家にはアン計りて、其も男とばかり遊んでゐるんだから。貴女の旦那さんは、無論妾の様なお婆さんが一緒にゐたら、五月蠅いと思はれるでせうし。否、そんなに云つて下さつても駄目ですよ。禮義にさう云つて下さるのは嬉しいけど、他の心持はよく分つてゐますから……(二人は見えなくなり。聞えなくなる迄話續けて行く)

アンはウアイオレットの折好き忠告を思ひ合せながらタナアに近き、一寸の間可笑しな風に、頭から足の先迄然々見て、終に思つてゐる事を云ふ

アン ヴアイオレットさんの云ふ通りですわ。貴方は結婚なさらなげやいけません

タナア (破裂ける様に) アンさん、僕は貴女と結婚しないよ、分つたかい。僕は如何し

ても、如何しても、如何しても結婚しないよ

アン (沈着いて) だから誰も貴方にして下さいとは云ひません。して下さいとは云ひません。して下さいとは云ひませんと、左様彼女が云つてゐましたわ。で、此話はお終ひ

タナア さう、誰も僕にして呉れとは云はないさ。併し誰でも、もう極まつた事の様にしてゐるぢやないか。云は、此は周圍に匂つてゐるんだ。で、僕等が出逢すと他の者は僕等を二人切にして置く様に、見え透いた口實を作つて、皆何處かへ行つて終ふ。ラムズドン君も最早僕に苦い顔をしなで、まるで貴女を教會で僕に渡してやも終つた様に、目を嬉しさうに光らしてゐる。テヴィは僕を貴女のお母さんに渡して、お祝迄云つて呉れた。ストレイカアは公々然貴女を未來の主人として扱つてゐる。始めて其事を僕に云つて呉れたのも彼なんだ

アン 貴方は其でお逃げなすつたの



タナア さうさ、さうしてすぐ戀病に憑れてゐる山賊に引留められて、課業を怠惰た  
學校小供の様に、捕へられて終つたのさ

アン なに、貴方が結婚するのが嫌でしたら、して戴かなくつてもようござんす（男  
から離れて、ツンと澄して坐る）

タナア （女に尾いて行き）絞殺されるのを好きな者はありやしない。其でも人は生きやうと  
藻掻きもしないで、絞殺させて終ふぢやないか。少くとも傍にゐる坊主の頭を撲  
り飛ばす位な事は出来るんだけどね。僕等は自分等の意思ではなしに、宇宙の  
意思を遂げてゐるんだ。貴方が夫を得なけやならんのは宇宙の意思だ。だから僕  
も結婚しなければならん様になるだらうと、其を怖れてゐるんだ

アン え、妾は必つと結婚する様になりますよ

タナア 併し何故僕となんだらう——數多男のある中で、何故特に僕を指してゐる  
んだらう。僕に取つては結婚は謀反だ。靈の聖殿の汚辱だ。人格の破壊、生得權

の賣却、恥づべき降服、厭ふべき開城、敗北の承認だ。其目的に用ゐられ、最早  
不要に歸した物の様に、次第に朽ちて行き、未來ある人から過去ある人に移るん  
だ。他の、夫となつた人達の脂切つた目の内に、彼等と同じ羞辱を分つべき、新  
しき囚はれ人の來たのを見て、喜ぶ色を見なければならなくなるのだ。のみなら  
ず若い人達には、「自ら賣つた人」と嘲けられ、女には、今迄始終一の謎であり、  
一の可能であつた僕が、單に誰かの財産、而も疵物——よく云つても男の古手と  
見られる様になつて終ふんだ

アン ぢや、貴方の奥さんは貴方が他人に卑下なさらなくてもいゝ様に、無縁帽を被  
つて醜くしてゐたらいいでせう。恰度妾の祖母さまの様にね

タナア 自分の勝利を一層不遠慮に表はすために、獲物が罠にかつたら最後、公然  
餌を投棄して終ふんだらう

アン だつて、結局同じぢやありませんか。美しい物も始め見た時には大變結構です



が、二三日も家にあれば、誰も振返つて見なくなるでせう。妾はお父さんが宅の繪を始めて買つていらした時、大變奇麗だと思ひましたが、其後幾年かもう見た事ありません。貴方には妾の顔なんか如何でもいゝんでせう。もうすつかり慣切つていらつしやるから。妾は傘立も同じぢやありませんか

タナア 虚言を吐け、血吸鬼、虚言を吐け

アン お世辭屋さん。妾と結婚したくないのなら、何故妾を蕩かさうとなさるんでせう

う

タナア 「生の力」の故なんだよ。僕は「生の力」に捉へられてゐるんだ

アン 妾には何の事か少許も解りません。何だか「親護兵」と云ふ様に聞えますよ

タナア 何故又テヴィと結婚しないんだらう。テヴィはしたがつてゐるぢやないか。貴女には餌食が藻掻かなければ満足出来ないのかい

アン (秘密でも打聞ける様に男の方へ向いて) テヴィさんは一生結婚はしませんよ。まだお氣

付ぢやないかも知れませんが、あゝ云ふ性質の人は、決して結婚はしないものです

タナア なに、あんなに女を崇拜してゐる男が結婚しないつて。美しい浪漫的の景色でも見れば、すぐ其を愛の二人奏曲の背景にでもしやうと云ふ男。あの女に手厚い、忠實な、氣の優しい、真心のあるテヴィが一生結婚しないつて！なに、彼は途中で一寸美しい女にでも逢へば、すぐ其に參らされて終ふ様に、生れ付いてゐるんぢやないか

アン え、其はさうよ。ですけどそれでもあゝ云ふ性質の人は、何時も失戀を抱いて、不自由のない獨身住居に、宿の女將さんに崇拜されてゐるもので、決して結婚はしませんよ。結婚するのはいつも貴方の様な方ですよ

タナア (額を打つて) 降參つた。ほんとに貴方の云ふ通りだ。此事實は今迄始終僕の目の前にぶら下つてゐたんだが、僕はまだ其には氣が付かなかつた



アン え、其は女でも同じよ。詩人風な性質はほんとに好い性質で、可愛らしくつて罪がなくつて、其こそ眞實に詩的ですが、困る事には其は老處女の性質です

タナア 詰り結實らない性質で、「生の力」の避けて通る奴なんだね

アン 「生の力」つて其事を仰るのなら、つまりさうよ

タナア 貴女はテヴィは好かないのかね

アン (テヴィが聞える處にぬないかと確めるために、注意深く四方を見渡しながら) え、

タナア 而して僕は好なんかね

アン (靜に立上つて男を打つ眞似する) まあ、ジャックさんてば、もつと上品になさいかね

タナア 此破廉耻の、不貞腐れ! 惡魔!

アン 王蛇! 象!

タナア 偽善者!

アン (靜に) 妾は後の夫のためなら、偽善者にもならなければなりません

タナア 僕の爲と云ふんだらう(一生懸命に言直して) 否、誰かの爲めと云ふ積りだつたんだ

アン (訂正は認めずに) え、貴方のためよ、ジャックさん。貴方は今仰つた偽善者をお貰ひなすつた方がいゝでせう。偽善者でない女は、新案服を着廻つて他から

侮辱されたり、或は種々の難題を引起して、終には夫までが其中に捲込まれて、始終又何か事件が起りはしないかと、其許り心配してゐなければなりませんよ。

其よりは自分の信頼られる妻の方がいゝでせう

タナア 否、決していゝとは思はない。難題(熱湯)は革命家の素質だ。其で湯傷さして遣れば、乳桶でも掃除する様に、清淨に人間の掃除が出来ていゝ

アン 冷水にも使途はありますよ。第一健全ですからね

タナア (絶望的に) やあ、貴女は奇抜だ。今此大切な時に「生の力」があらゆる素質を貴女に與へるんだ。なに、僕だつて偽善者になれる。僕は貴女のお父さんの遺言状態で、貴女の保護者には指定されたが、聲には指定されてなかつた。僕は自分の



寄托に飽迄忠實にする

アン (低い魔女の様な聲で) お父さんはあの遺言状をお作りなさる前に、誰を保護者にしたらいいかと仰つたから、妾は貴方をして頂戴と云つたのよ

タナア ぢや、あれは貴女の作つた遺言状なんか。罽は始めから掛けてあつたんだな  
アン (あらゆる魔力を集中して) 始めから……子供の折から……妾達二人に……「生の力」が罽を掛けてゐたんでせう

タナア 僕は貴女とは結婚しない。僕は貴女とは結婚しない

アン 否、なさるわ。なさるわ

タナア 否、しない、しない、しない

アン 否、なさる、なさる、なさるてば

タナア 否、しない

アン (蕩むす様に、頼む様に、殆んど疲憊切つて) なさるてば。後悔しても追付かなくなりま

すから。すると仰やいな

タナア (過去の響に打たれて) 前に何時こんな事があつたんだらう。僕等は夢を見てゐるのか知らん

アン (突然勇氣を失つて、露骨に心配の様子を見せ) いえ、醒めてゐます。而して貴方はしな

いと仰つたんです

タナア (殘忍に) 其で?

アン いえ、妾は思違しました。貴方は妾を愛してはいらつしやらないでした

タナア (女を兩腕に抱いて) そんな事があるものか、僕は貴女を愛してゐる。「生の力」が僕の魂を恍惚して終つた。貴女を抱けば腕に世界を抱いた様な氣がする。併し、僕は僕の自由、僕の名譽、僕の自我、單一不分なる此自我のたに戦つてゐるのだ

アン 幸福が其を償ふてはありませんか

タナア 貴女は自由、名譽、自我を幸福のために賣る事が出来るか



アン 妾には此は幸福許りではありません。事に依つたら或は死かも知れませぬ  
タナア (呻吟いて) あゝ、「生の力」の捕捉は人を押へ、傷けるのか。貴女は僕と云ふ  
ものに何を握んだ。世中には「母心」と云ふ様に「父心」と云ふ物があるん  
だらうか

アン お止しなさいよ、ジャックさん。若しかうしてゐる間に誰か來たら、貴方は否  
諾なしに妾と結婚しなげやならなくなりますよ  
タナア 今二人が崖の上に立つてゐたら、僕は貴女を確り抱へて一緒に其處へ飛込ん  
で終ふ

アン (緊張のために次第に弱つて喘ぎながら) ジャックさん、離して頂戴。妾は眞實に大膽た  
事をして………こんなに何時迄もかうしてゐちや不可ません。離して頂戴、妾  
もう堪へられませんから

タナア 僕だつてさ。なに、此儘取殺されやうよ

アン えゝ、構はないわ。妾もう氣力がなくなつちやつて……構やしないわ。妾何だ  
か失神しさうよ

此時ヴァイオレットとオクタヴィアスはホワイトフィールド夫人と一緒に別荘から出て来る。ホワイ  
トフィールド夫人は外出の身仕度をしてゐる。同時にマロオンとラムズドゥンはメンドザとストレイカー  
の先に立つて、垣根の小門から入つて来る。タナアは極悪さうにアンを離し、アンは眩暈るし相に額  
を抑へる

マロオン 此はいけない。お嬢さんが如何かなすつた様だ  
ラムズドゥン 此は如何した事かな

ヴァイオレット (アンとヴァイオレットの間に走寄つて) 何處か悪いの

アン (蹣跚めきながら無理に力を出して) 妾はジャックさんとお約束をしたの (失神する。ヴァ  
イオレットは側に蹲んで手を擦る。タナアは向側に駆け廻つて、女の頭を擡げやうとする。オクタヴィアス  
は手傳ふ心で、ヴァイオレットの傍に寄つたが、扱如何してゐるか分らない。ホワイトフィールド夫人は急い



て別荘に行き、オクテヴィアス、マロオン、ラムズドランの三人もアンに駈寄り、何か手傳ふ積りで、蹲んだ儘  
 静つと周圍に集つてゐる。ストレイカアは冷淡にアンの足許へ來、メンドザは頭の方へ廻つて、何れも落着  
 いて立つてゐる。

ストレイカア さあ皆さん、そんなに周圍に集つてゐちや不可ねえ。もつと風を通さなく  
 ちや——通せる丈通して上げなくちや。さあ、もし、皆さん……(マロオンとラムズドッ

ンはストレイカアに迫はる、儘、靜にアンの傍を離れて庭の方へ行く。オクテヴィアスも自分の役に立たない  
 事が分つて來たので、やがて又其方へ行く。ストレイカアは皆の者を追ふて行く途中一寸立止つてタナアに  
 指圖する) 頭を擡げちや不可ねえ。血の戻れるやうに、平にして置きなさらなげや

メンドザ タナアさん、ストレイカア君の云ふ通りですよ。シエラの空氣に任せ置きな  
 すつて大丈夫です。(慌ましく庭の階段に退く)

タナア (起上つて) ヘンリー、生理學の智識は君の方が上だから、君の云ふ通りにする  
 よ。(芝生の隅へ退る。オクテヴィアスはすぐに急いで傍へ降りて來る)

テヴィ (タナアの手を握つて低く) ジャック君、嬉しいだらう

タナア (低くテヴィに) 僕は自分から言出したんぢやない。畏にかけられたんだ。(芝生の  
 上を庭の方へ行く。オクテヴィアスは呆氣に取られて立ちすくむ)

メンドザ (ホワイトフィールド夫人が別荘から火酒を杯に盛つて、遣つて來たのを遮り止め) 奥さん、此は何  
 です(女から杯を取る)

ホワイトフィールド夫人 火酒です

メンドザ 飛んでもない。御免(一息に飲む) 奥さん、イエラの空氣に任せてお置きな  
 すて大丈夫です(男連は少時の間アンの事も打忘れて、一齊にメンドザの方を見る)

アン (グアイオレットの頸に獅噛みつき耳に口寄せて) グアイオレットさん、妾氣が遠くなつてか  
 ら、ジャックさん何か仰やつて

グアイオレット 否、何も

アン あゝ、(非常に安心した様に吐息して、又元の様に返る)



ホワイトフィールド夫人 あゝ、又氣が遠くなりまりました（皆アンの方へ駈寄らうとしたが、メンドザは警める様な手付で其を止める）

アン（仰向になつた儘）否、さうぢやないの。妾ほんとに幸福なの

タナア（突然に女の方に歩み寄り、ヴァイオレットの持つてゐる手を取奪つて脈を見る）なんだ、脈がどん／＼打つてゐるぢやないか。さあ、起きた。何を馬鹿な真似してゐるんだらう。さあ、起きた（お構ひなしに引起す）

アン えゝ、もう大丈夫よ。だけどジャックさん、貴方はもう少して妾を殺してお終ひなさる處でしたのよ

マロオン 手荒いお聲さんですかね、えゝ。併しさう云ふのが一番いんですよ、お嬢さん。タナアさんはほんとにお幸福だ。何卒又御一緒に、度々寺院の宅へ遊びにいらしつて下さい

アン 有難うございます（マロオンの傍を通り過してオクテヴィアスの方へ行く）リッキイ、テイッキ

い、テヴィさん、お祝を云つて頂戴。（低い聲で）妾もう一度貴方を泣かして上げ度いわ

テヴィ（確りして）もう泣くものか。貴女が幸福だから僕迄嬉しい。而して僕はどんな事があつても、矢張り貴女を信じてゐる

ラムズドワン（マロオンとタナアの間に来て）ジャック、タナア君、君は實に幸福な男だ。私はほんとに羨ましい

メンドザ（ヴァイオレットとタナアの間に進み寄つて）世中には二つの悲劇があると思ひます。其一つは自分の思の達いた事で、今一つは自分の思の達かない事です。私と貴方がつまりそれでせう

タナア メンドザ君、僕は自分の思なんか達いてやしないよ。ラムズドワンさん、貴方ならば僕を幸福な男とも云へるでせう。貴方は只傍觀者なんだから。併し僕は主人側の一人で、もつと其邊の事はよく呑み込んでゐます。アン、もうテヴィを騙す



のは止して、此方へ來たらどうだ

三九八

アン (云はれた通りにして) 随分だわね (男の差延べた腕を捉る)

タナア (言葉を續けて) 僕は莊嚴に云つて置くが、決して幸福ぢやない。アンは幸福に見えるが、彼女だとして只勝誇り、自分の成效、戦勝を喜んでゐる丈なんだ。此は幸福ではなくして、強者が自身の幸福を賣る代價だ。今日僕等の爲た事は、幸福を棄て、自由を棄て、安静を棄て、殊には不知の未來に起り得べき浪漫的な楽しい出來事を棄て、代りに家庭や家族の面倒を引受けたと云ふに過ぎない。で、僕は諸君に斷つて置くが、萬望此際此を機會に酒に酔倒れたり、無意味な演説をしたり、僕を槍玉に下卑な諧謔などは見合はして貰ひ度い。僕等は家の道具萬端も二人の趣味によつて備へたいと思つてゐる。従つて其でも解る様に、諸君が此から送つて呉れる、七つ八つの旅行用時計、四つ五つの化粧箱、サラアドの鉢や、肉切小刀、魚切小刀、極上モロッコのテニスンの詩集、其他あらゆる贈物は、すぐ

其場で賣拂つて、其金をば悉く「革命家必携」の、無代頒布に費つて終ふ積りだ。結婚式は特に許可を受けて、歸國後三日目に區登記監督官の事務所、僕の代認人及書記參列の上で舉げる。其日の服装は、代認人は素より僕等二人も不斷着の儘で……

ヴァイオレット (深くさうと信じて) 貴方は随分な人ね、ジャックさん

アン (男の腕を撫りながら、妻らしい誇を面に浮べて夫を見守り) ヴァイオレットさんなんか何と云つたつて、構やしないわ。もつとお饒舌なさいな

タナア お饒舌だと!!

皆笑ふ

幕



大正二年十一月廿八日印刷  
大正二年十二月一日發行

人と超人

定價金壹圓貳拾錢

著者 細田 秀造

發行者 東京市神田區小川町四十一番地 檜村喜久太郎

印刷者 東京市芝區愛宕町三丁目二番地 笠間 音次

印刷所 東京市芝區愛宕町三丁目二番地 東洋印刷株式會社



發行所

東京市神田區小川町  
(振替口座一三三三六)

敬文館  
【電話本局四、八五五番】



# 告 廣 刊 新 最

笹川臨風先生校

## 英 雄 經

文學士 沼波瓊音先生著

## 小 說 芭 蕉 の 臨 終

文學士 吉丸一昌先生著

## 新 撰 作 歌 法

福島縣附屬小學校編纂

## 綴り方教授の實際

中 版 箱 入 美 本  
定 價 金 壹 圓 五 拾 錢  
送 料 金 拾 貳 錢

洋 裝 頗 美 本  
定 價 金 五 拾 錢  
送 料 金 六 錢

菊 版 上 製 美 本  
定 價 金 五 拾 五 錢  
送 料 金 六 錢

菊 版 上 製 六 百 二 十 頁  
定 價 金 壹 圓 八 拾 錢  
送 料 金 拾 貳 錢

## ◎ 大 將 乃 木

文學士 橫山健堂著

大版函入頗美本  
定價金貳圓貳拾錢  
送料 內地 金拾貳錢  
清、韓 金四十錢

明治の神人たる乃木大將の評傳にして、好評噴々たるもの、著者関連の筆、能く大將の風姿を彷彿せしむ、蓋し國民的の大著述たるを失はず。

## ◎ 男 性 美 (其一)

笹川臨風著

意匠斬新頗美本、  
定價各金七十錢  
送料 金八錢

著者が鬱勃たる氣を吐けるもの、大正新人の男子道を説き盡して餘蘊なし、青年の好讀物と謂つ可し。

## ◎ 新 人 國 記

文學士 橫山健堂著

天金菊判函入  
定價 金貳圓廿錢  
送料 內地 金拾貳錢  
清、韓 金四十錢

著者は趣味の人なり、而して人物を論じ、風土を論ずるに關連の筆を以てす、妙味眞に當世の異彩なり、本書はその粹を集む。

## ◎ 舊 藩 と 新 人 物

文學士 橫山健堂著

菊判函入美本  
定價金貳圓五十錢  
送料 內地 金十六錢  
清、韓 金四十五錢

紙裏蛟龍躍り、猛虎嘯むの慨あるもの、本書特色の存する所なり、新人國記を讀みたるものは、又本書を繙かざる可からず。



山路愛山著

◎伊達騷動記

菊判函入美本  
定價 金壹圓  
送料 金八錢

本書は史學の大家愛山先生の、  
一々真據ある事實によつて、伊  
達騷動の真相を、正確に且つ面  
白く紙上に活躍せしめたるもの  
なり。

山路愛山著

◎加賀騷動記

菊判函入美本  
定價 金七十五錢  
送料 金八錢

加賀騷動の真相を容易に理解せ  
しめ、興味多く一般讀者の歡迎  
する處なり。

文學士 白河鯉洋著

◎諸葛孔明

洋裝總布美本  
定價 金壹圓  
送料 金八錢

古今東西の偉人中殆んど其比を  
見ざる迄に完全なる諸葛孔明は、  
本書によつて遺憾なく其の面目  
を躍如たらしむ、其文致も全く  
孔明の人格に一致す。

吾恥庵主人著

◎我愛する偉人

天金總布美本  
定價 金五十錢  
送料 金六錢

凡ゆる偉人傳中諸葛孔明を物色  
し、透徹の識見と熱烈なる文辭  
とを以て之を評論したるもの、  
青年修養の好評書。

山路愛山著

◎書齋獨語(其二)

四六版美本  
定價 各金六十五錢  
送料 各金八錢

愛山先生の社會萬般の事象に對  
する大獅子吼にして、激勵風發  
光風霽月の好文字、以て文範と  
なすべし。

圖南生選

◎お國自慢

四六版美本  
定價 金六十錢  
送料 金六錢

お國自慢は即ち一のローカルカ  
ラーにして、如何なる處に、如  
何なるお國自慢ありや、一讀す  
るも亦樂しからずや

大月隆仗著

◎兵車行

菊判函入美本  
定價 金九十錢  
送料 金八錢

著者が徹底せる眼光は、戰場生  
活の眞諦を掴み、殺氣滿々たる  
陣頭の實況を、平かに且つ麗は  
しく書ける戦記物語にして、通  
俗的讀物として文部省の推薦を  
受けたり。

由上治三郎著

◎鐵蹄夜話

菊判函入美本  
定價 金九十五錢  
送料 金八錢

實戦の人の率直なる回想談を骨  
子とし、行文典麗高雅の快文字、  
報國の赤誠を經とし、盡忠の熱  
精を緯として羅織せる、明治武  
士道の精華なり。



出口競著

◎高等學校評判記

裝幀高麗美本  
定價 金六十錢  
送料 金六錢

筆路暢達、文に滲滯の氣なく、  
齒ぎれよく、全國の高等學校の  
品騰、榮として活畫圖をなす。

醫學士 中村護著

◎神經質と其療法

菊判裝幀頗美  
定價 金壹圓  
送料 金八錢

學術的に果た一般的應用的に、  
その療法を説明し、容易にこれ  
が懐懐より救はんとするもの。

文學士 八波則吉著

◎趣味と修養

菊判洋裝美本  
定價 金壹圓三十錢  
送料 金十錢

『分り易く面白くて爲になる』と  
は本書の三綱領、一生を有益に  
樂く暮さんとするものは、本書  
を讀め。

坂本箕山著

◎賴山陽

菊版千五百頁美本  
定價 金四圓五十錢  
特價 金參圓八十錢  
送料 金十八錢  
内地 金四十五錢  
清、韓 金四十五錢

著者が十五ヶ年間苦心の集積に  
して、我が國民的大文豪を傳せ  
しもの、本書を措いてその右に  
出づるものなし。

文學博士 吉田熊次著

◎社會教育

菊版五百餘頁  
定價 金壹圓八十錢  
送料 金十二錢

西洋諸國に行はれつゝある社會  
教育を、組織的に記述せるもの  
教育家並に一般經世家の愛讀す  
べきものなり。

竹島茂郎著

◎學校園の實際

菊版洋裝美本  
定價 金五十錢  
送料 金八錢

從來行はれつゝある學校園は一  
種の風致園に過ぎず、本書はこ  
れが改新を目的とし、著者が實  
驗に基き、理想的の學校園を、  
最も實際的に作るの方法を指導  
せる良書なり。

高師講師

河原橋彌著

◎學校用 兵式教練教程

新形洋裝美本  
定價 金四十五錢  
送料 金六錢

著者が實際經驗により、兵式教  
練を教育的に最も巧みに叙述し  
たるもの、蓋し體操教育の福音  
なり。

文學士

山内素行著

◎日本短歌史

四六版洋裝美本  
定價 金壹圓  
送料 金十錢

和歌の史的研究にして、これが  
起原より最近明治歌壇に至る、  
これが發達興隆を詳説し、加ふ  
るに精細なる年表及び索引を以  
てせり。



文學士 小林愛雄著

### ◎支那印象記

四六版裝幀優雅  
定價金七十錢  
送料金八錢

新らしき眼を以て、支那の自然と人文とを觀察し批判せるもの神秘の支那は茲に赤裸々に解剖せられたり。

六

讀賣新聞主筆 笹川潔著

### ◎通俗教育 眼前小景

定價金七十五錢  
送料金八錢

通俗教育に關する、着眼の奇抜な、面白くて爲めになる好著、全篇悉くこれ達人の達觀なり。

讀賣新聞教育記者 豊岡茂夫著

### ◎大楠小楠

定價金六十五錢  
送料金八錢

本書はこれ南北朝問題を以て、一世に怒號せる著者の信條を、二楠氏に假りて寄語せる、哀れなる絶筆なり。

三卷洋一著

### ◎吾が一生

菊判堅牢美本  
定價金壹圓  
送料金十錢

本書は、その所有者が自己の一生を叙せんとするに資する一の紀念録なり、親は子の爲め、子は親の爲め、各一本を備へて、一個の系圖たらしむべし、蓋し文明的の紀念帳なり。

佐々木吉三郎著

### ◎教育的美學

上卷壹圓貳拾錢  
中卷壹圓參拾錢  
下卷壹圓四拾錢  
送料 金拾貳錢

斯界に於ける、最も創造的の試みになれる、教育學と美學との調和的組織を企て、所謂新時代の新教育學を樹立せるもの也。

文學士 吉田靜致著

### ◎倫理と人生

定價壹圓廿五錢  
送料 金拾貳錢

本書は著者が抱懐せる人道的國家主義の倫理觀を披瀝せるもの文檢受驗者の良參考書たるのみならず、一般思想家の一讀を要すべきものなり。

文學士 野明敏治著

### ◎國民教育原論

定價金壹圓拾錢  
送料金八錢

著者は帝大銀時計の秀才教育學專攻の士、從來教育學の迷妄を斷じ、人道的帝國主義を主張し鼓吹するもの也。

山松鶴吉著

### ◎小學校に家庭の教育を連絡せる

定價金壹圓  
送料金八錢

本書は現代の家庭教育上に注意を要し實行を必要とする實際的の事項を極めて平易に叙述せられたるものなり、されば父兄は勿論一般教育家必須の好讀物たるを信す。

七



高島平三郎著

### ◎婦人と家庭

定價 金壹圓廿錢  
送料 金十二錢

婦人と家庭との問題を心理學的に解釋せるもの、その理論的研究に加へて、附録「母より受けたる欲調」の如き、具體的に理想的の婦人を捉へ來れる處、最も興味深し。

文學博士 吉田熊次著

### ◎我國民道德と宗教との關係

定價 金四十錢  
送料 金六錢

著者が宗教及國民道德に關してなせる大論文なり、故乃木大將は本書を精讀せられたりと、この問題は刻下焦眉の大問題なり諸彦の一讀を要す。

醫學博士 三宅鑛一著

### ◎通俗的兒童心理講話

定價 金壹圓  
送料 金十錢

本書は通俗平易を旨としたる病的兒童の性質處置及教育法の大要を説けるもの、病兒の爲めに悩める父兄は勿論、教育家の一讀を希ふ。

文學博士 遠藤隆吉 市川源三共著

### ◎男女青年之心理及教育

附、青年團之指導

定價 金壹圓  
送料 金拾錢

社會學及心理學的の見地より、男女の心理を説明し、これが教養指導の方法を究明せるもの、青年團の指導に至りては、殊に適切を極む。

山路愛山先生序 柳沼蓬水著

### ◎教師の自白

定價 壹圓五拾錢  
送料 金拾二錢

現代教育の赤裸々なる暴露、高潔なる著者の偽らざる告白、本書を手に入らずして現代教育を語るものあらば迂腐の徒のみ。

竹下和吉著

### ◎學校に於ける個性教育の研究

定價 金八拾錢  
送料 金八錢

個性發揮は各方面に於ける現代の中心問題なり、而して特に教育上に於てはその研究の深甚なる意義を有するものなり、本書はこれが理論的研究に加へては實際的の揭示をも試みたり。

米國教育學博士 西山哲治著

### ◎最近思潮實際教育の新研究

定價 金八拾五錢  
送料 金八錢

新進の著者が歐米留學の蘊蓄を傾注せる創造的研究の發表なり識者の一讀を要す。

秋鹿見二著

### ◎歴史的教材資料

定價 金壹圓廿錢  
送料 金拾貳錢

國定教科書に現はれたる歴史的教材に就いて、親切なる解説を試みたるものなり、實際教育者の重寶とすべき斯界の好伴侶たり。



佐々木 清之丞 共著  
秋鹿 見二

◎教授資料 大日本物産 解詳

定價 貳圓三拾錢  
送料 金拾六錢

國定教科書に現はれたる、本邦物産四百種に關する解説を詳にせるものにして、地理科教授の良參考書たるのみならず、一般實業家座右の好伴侶たるべき名著なり。

北澤種一著

◎實際教授 高等小學讀本研究

定價 金八拾五錢  
(上) 金壹圓貳拾錢  
(下) 金壹圓貳拾錢  
送料 各金八錢

國語科教材の研究書にして、教授事項の研究に止まらず、教科書を中心とする、國文學的趣味の助長を主眼とし、その實績を收めんとするは本書の使命とする處なり。

相馬龜三郎 共著  
馬淵 冷 佑

◎少年物語

定價 各金拾二錢  
送料 金四錢

讀本に連絡せる少年の讀み物、家庭並びに學校の賞與品として好適のもの也。

吉丸一昌著 (文部省檢定濟)

◎乃木大將夫人の歌

定價 金五錢  
送料 金二錢

乃木大將夫人の淑徳をして、味節の裡に體得せしめんとするもの、曲調又嶄新なり。

吉丸一昌著

◎幼年唱歌 新作唱歌

自一集至六集既刊  
定價 各二拾錢  
送料 金四錢

隔月に刊行して、學校教育の唱歌教授の資料たらしむるものなり。好評噴々。

藤川淡水著

◎論語 お伽噺

定價 金七拾錢  
送料 金八錢

やすくてきれいなお伽噺。面白くて爲になるお伽噺。誰れにも讀めるお伽噺。

明治四十五年四月改正  
文部省御許可

◎改正手旗片假名信號法

定價 金七錢  
送料 金二錢

最も文明的に改正されたる手旗信號法なり。

文學士 丸井圭次郎著

◎日本外史 青年漢文教科書

定價 金三十錢  
送料 金六錢

(文部省檢定濟)



青年指導研究會編 (大正貳年增訂)  
業間補習**青年讀本** (全二冊)  
定價各金三拾錢 送料各金六錢

同上**參考書** (全二冊)  
定價金二拾錢 送料金四錢

青年指導研究會編  
補習**農業新讀本** (全二冊)  
定價各金廿五錢 送料各金六錢

同上**參考書** (全一冊)  
定價金拾五錢 送料金四錢

佐々木清之丞編  
必讀**國語漢文教本** (全二冊)  
定價各金廿八錢 送料各金六錢

同上**參考書** (全一冊)  
定價金二拾錢 送料金四錢

河合五三郎 星野五郎 共著  
系統**實業新算術** (全一冊)  
定價金三拾錢 送料金六錢

大山幸太郎編 (大正貳年增訂)  
系統**實業新讀本** (全三冊)  
定價(上)金廿七錢 (下)金廿五錢 送料各金六錢

高橋喜藤治編 (大正元年新刊)  
大**實業補習讀本** (全三冊)  
上中下各金廿錢 送料金四錢

高橋喜藤治編 (大正貳年增訂)  
國民**補習讀本** (全三冊)  
上下各三拾錢 送料各六錢

佐々木清之丞編 (大正貳年新刊)  
大正**國語漢文讀本** (全二冊)  
定價各金貳拾七錢 送料各金六錢

蘆田惠之助著  
**作文補習教本** (全一冊)  
定價金貳拾五錢 送料金六錢

久米卯之彦編 (大正貳年新刊)  
十八**青年漢文教科書** (全一冊)  
定價金參拾錢 送料金六錢

久米卯之彦編 (大正貳年新刊)  
論**青年漢文教科書** (全一冊)  
定價金參拾錢 送料金六錢

青年指導研究會編 (大正貳年新刊)  
新**補習讀本** (全二冊)  
定價各金貳拾五錢 送料各金六錢

青年指導研究會編  
用**算術教科書** (全二冊)  
定價各金貳拾錢 送料各金六錢

東京高師訓導 村野幸二郎編  
尋常五**國語辭典** (六年用)  
定價金貳拾錢 送料各金四錢

小學校の児童をして辭書を用ひしむるは尋常五六年よりするを最も適當なりとす。本書は凡て發音によりて見出すの方法を用ひたれば尋常五六年用として最も適當のものなり。



山口縣中學校教頭 高桑良興著

### 爬虫類學講話

菊版洋裝美本  
定價金壹圓貳拾錢  
送料金八錢

自然に關する智識を豊富にすることは、總て最も簡易なものである。然かも趣味ある記述によりて、不知不識の裡に之れが進化的知識を豊富にする。爬虫類の常識讀本である。又専門研究家に教師諸君の教授資料として蓋し斯界の第一品である。

トルストイ作  
文學士 前田太郎原譯

### 生ける屍

中版美裝  
定價金八拾錢  
送料金八錢

人生の眞想を徹底的に然かも赤裸々に活躍せしむる舞臺は、光彩陸離として宛然ヤスヤナボリヤナの偉人を地下に起して再び彼が全生涯を通じての絶叫を續けしむるの想あり。

東京正則傳法久太郎 間崎勝義共譯  
學後講師

### ユニオン 第四讀本詳解講義

中版函入美本  
全一冊  
定價金壹圓四拾錢  
送料金拾貳錢

(一)譯文は嚴正流暢に巧に意譯と直譯との中脩を取つて居る。(二)難解の文句には一々比較類例參考等を擧げて説明し原文は一々今日坊間十餘頁に涉つて居るとがある。(三)對し註釋十餘頁に居るユニオン註釋書は多くは其最初の十數章を載せて居るのに過ない。が本書は實に其全卷に亘つて居るのである。

野口秀敏著

### 分類算術模範例題解法

(一名算術問題暗示辭典)

中版頗美本  
定價金壹圓  
送料金八錢

東京時事新報評  
數多き算術問題中より代表的のもの數百題を選び之を易より難に排列し以て算術解法に妙味を與へんと力めしもの也。卷末に藤澤氏、國枝氏、樺氏、寺尾氏、吉田氏、林氏、高木氏、澤田氏等算術書に就て類似問題對照表を附せるは尤も氣がきよたり。

東京府第一市川源三 共著  
高女校教諭 丸山庄司

### 韻文教授之新研究

菊版上製美本  
全一冊  
定價金九拾錢  
送料金八錢

現時閉却せられたる韻文を系統的に取扱ふべき所以を論じ、其細案を示し、韻文教授を情的たらしめん爲めに補説教材の必要を説き、韻文教授を徹底せしめんために應用練習の妙用を陳べたり。

東京音樂學校教授 吉丸一昌作歌  
本居長世作曲  
松本幸四郎振附

### 歌あうかれ達磨

菊四倍版  
定價金八拾五錢  
送料金四錢

本書は日本最初のコミックオペラとして熱狂的歡迎を博したること既に滿都諸君子の了知せる所にして實に學校家庭並に各種の集會劇場等に於ける唯一の樂材たり。

文學士 吉丸一昌著

### 新撰作歌法

菊版頗美本  
定價金五拾五錢  
送料金六錢

初學の人々短歌の作法を講ずるには從來の如く唯理義に偏したる説法にては實際に益なく、さりとして歌語を並べて古歌を採萃したるのみにては短歌の精神を傳へ難し、本書は先生其の教案に依りて清新の詩趣を説くと共に新案の實習方法を講述せられたれば、新舊何れの人も此書に依りて作歌上の基礎智識を養ひ置かざる可からず。

慶應大學講師 柳沼蓬水著

### 校長生活

中版箱入頗美本  
定價金壹圓  
送料金拾貳錢

現代の文豪山路愛山氏をして一讀三嘆に堪へざらしめた云ふ「教師の自白」著者、今又筆硯を洗つて本書を叙す。血か涙か、怒號か咆哮か、そも其の感觸せるものは何ぞ、その獅子吼をなす所以のものは何故ぞや。



笹川臨風著

### 英雄經

中版函入  
七百餘頁  
定價金四拾錢  
送料金拾貳錢

本書は資治通鑑の三國史時代を原文と共に對譯し之に頭註を加へたるものにして英雄の心事瞭然として火を踏むが如く、兼て漢文を獨修するに極めて恰好なり。所謂一部の英雄聖書なり、英雄傳なり、英雄史なり。加之添ふるに時代年表を以てすれば一部の三國史として甚だ完全のものなり。

文學士 沼波瓊音著

### 芭蕉の臨終

中版洋裝美本  
定價金五拾錢  
送料金六錢

現時歐米各國に於て第一に研究せられつゝある日本詩人は、芭蕉其人なり、翁は實に世界的たるべき高人なるなり、著者年來翁に就て知る事深し、こゝに事實を踏み、空想を擯へて其臨終を寫す、何人も讀過恍としてその醍醐味を忘る能はざるべし。

都新聞記者柴田三郎著

### 義人田中正造翁

中版美本  
定價金五拾錢  
送料金六錢

至誠一貫、苦戰奮闘、あゝ血と涙の生涯、著者はこれ翁が同郷の人、翁が平素の奇行逸話は本書の内に躍如たり。或は泣くが如く或は笑ふべし。

バーナード、シヨウウ作  
文學士 細田枯萍譯

### 人と超人

近刊印刷中

バーナード、シヨウウの名は今や世界の文壇を風靡して居る、殊に彼をして英名を放まゝにせしめたるものは本書である、譯者は文壇新進の秀才、原著の面影を宛然に髣髴せしむ。

間崎勝義編

### 英文法辭典

近刊

本書は英字書界破天荒の企てに屬するもの著者が獨創の見地より、至難なる英文法研究に資せんとするもの、益し英語研究家の一大福音と云ふべし。

間崎勝義著

### 英文和譯祕決

近刊

英文和譯は又斯學中の一難事に屬す、著者その難點を彙類して、容易に之れを理解し、且つ應用に自在ならしむ、これ又學生諸君の虎の巻なり。

田中王堂著

### 我が非哲學

近刊

三年發かず飛ばず、暫く沈黙を守りて、只管眞理の講究に餘念なかりし王堂先生、爰に筆硯を洗ふて、曰く、我が非哲學と、嗚呼そも何の謂ひぞ、諸子一本を讀め。

文學博士 幸田露伴著

### 日本書道の研究

近刊

日本書道の新研究にしてその歴史的系統的の研究なると同時に、書道の奥技に達せんとする人の一讀を要するものなり。



行發日一回一月每

# 月刊 現代教育雜誌

錢十七圓一冊二十◎錢拾九冊六◎厘五錢六拾冊一

## ◎本誌の特色

- 本誌は從來閑却されたる學校の設備管理及教育用品に關する新研究に任ぜんとす。
- 本誌は近時漸く其緒に就きたる教育衛生及社會教育に關する新研究新施設を報導すべし。
- 本誌は教育最新の思潮を評論し科學的見地より新著の責任ある批評を試みんと欲す。
- 本誌は教育雜誌當然の任務たる各科最新の教材教授訓練に關する新案及内外の教育時事に對しては特に細心なる紹介に努むべし。

●本誌の編纂者左の如し。

市川源三  
濱幸次郎  
小田島省三

棚橋源太郎  
山松鶴吉  
藤井利譽

島田民治  
日田權一

一八

編輯所 東京教育博物館内

發行所 東京小田町神田區文敬館(振替口座六三三二)



338  
240



終

